

2025年度前期 START+プログラム 事後レポート

所属学部・学科・学年	医学部保健学科作業療法学専攻 3年
------------	-------------------

(1) START+プログラムに参加して何を学んだか、この経験を今後どのように活かしていきたいか

私は英語を話すことが得意ではなく、また初めての海外だったので、台湾の方たちと意思疎通が行えるのかとても不安でしたが、相手の目を見てしっかりと話を聞き、自分の意見を正しく伝えられるようにボディランゲージを使ったり工夫した言い換えを行ったりして、コミュニケーションを取ることを頑張りました。その結果、話を通じたことで自信がつき、自分から積極的に話しかけ、他の人たちが話している内容も理解できるようになりました。台湾の皆さんと、プログラム参加者の皆さんの優しさに救われる場面も多く、自分もより意識的に思いやりを持って生活しようと思いました。

また、中国語の授業を受講し、日常会話を覚え、実際に買い物やご飯に行った際に使うことができました。これからも勉強を続け、英語だけでなく、中国語も話せるようになりたいと強く思いました。他の言語に関しても、触れていきたいです。

戸惑うことも多くありましたが、積極的に挑戦することで、多様な価値観や文化を理解するためにはまず自分から一歩踏み出す姿勢が大切だと気付きました。今後の大学生活でも、留学生や他学部の人と積極的に交流していきたいと思えます。そして将来についても、国際的な視点を持ちながら進路を考えていきたいです。広げることのできた自分の視野を、これからの生活でより充実させていきたいです。

(2) プログラム内容についての全体的な感想

16日間という、長くもあり短くもある時間を、本当にありがとうございました。

台湾は日本から近いアジア圏であり、街並みや人々の様子などが日本と類似している部分が多々あったため、とても過ごしやすかったです。

バスの送迎をしてもらってみんなで観光や施設の見学に行くことができ、とても貴重な経験ができました。また、医療系の学生でいるだけでは知ることのなかった、半導体や先進技術についての知識もつき、TSMCやNSRRCなどのさまざまな施設の見学を通して、電気工学系への興味を持つことができました。

(3) 今後 START+プログラムに参加する後輩へのアドバイス

みんなとてもやさしいので、英語が話せなくても伝えたいという意志があればコミュニケーションは取れると思います。たくさん場所に行って、たくさん写真を撮って、たくさん思い出を作ってください！フリーデイをどう過ごすか、またご飯をどこで食べたかなど、出発前にあらかじめ気になる場所をリサーチしておく、予定を立てやすくして

いいと思います。

そのほか、生活面において、お弁当やご飯が出ることも多いですが、相当な体力がないと毎日毎食外食に行けたりしないと思うので、7食分くらいの日本食などのご飯を持って行った方がいいと思います(コンビニもあります)。また、5万円分両替をしていって現金が足りなくなったので、自分が思うより数万円分多く両替をしていくことをお勧めします。スーツケースはできるだけ大きいものの方が、帰りの荷物に困らずに済むと思います。大学のWi-Fiを使うことができるので、ギガは思ったよりも使いませんでした。eSIMの無制限を登録していましたが、必要なかったのではないかと考えています。充電器は電圧が対応しているものであれば日本のものをそのまま使うことができました。

2025 年度前期 START+プログラム 事後レポート

所属学部・学科・学年	文学部人文学科 2 年
<p>(1) START+プログラムに参加して何を学んだか、この経験を今後どのように活かしていきたいか</p>	
<p>今回、台湾留学プログラムに参加したことで、私は多くの学びを得た。まず、人との関わりにおいて積極性を持つことの重要性を実感した。現地の学生や地域の人々は親しみやすく、初対面でも気軽に声をかけてくれることが多かった。そのような経験を通じて、自ら行動し相手に働きかける姿勢が、交流を広げる上で欠かせないことを学んだ。</p> <p>また、授業の中で、単に知識を理解するだけではなく、考えを言語化し共有する力が必要であることを学んだ。さらに、食文化や交通の利便性など、生活習慣の違いに触れることで、日本の生活を相対化し、自分自身の価値観を見直す契機ともなった。</p> <p>しかし、短期間の滞在であったため、十分に学びきれなかった部分も多い。そのため、今後の学生生活においては語学力の向上や異文化理解をさらに深め、長期留学に挑戦したいと考えている。今回の短期留学は、その第一歩として自分の視野を広げる貴重な経験であった。</p>	
<p>(2) プログラム内容についての全体的な感想</p>	
<p>台湾留学プログラム全体を振り返ると、非常に充実した内容であったと感じる。授業や講義を通じて台湾の文化や歴史、社会について多角的に学ぶことができただけでなく、現地学生との交流やフィールドワークを通して、教室内だけでは得られない実践的な学びを得ることができた。特に、異なる背景を持つ学生と意見を交換する機会は、自分の考えを整理し、異なる価値観を理解するうえで大きな刺激となった。</p> <p>また、プログラムは学問的な学びにとどまらず、日常生活を通じた体験学習の側面も大きかった。食文化などの違いに触れることで、日本での生活を相対化することができ、改めて自国の特徴や課題についても考えるきっかけとなった。</p> <p>全体を通して、このプログラムは語学力や異文化理解を深める場であると同時に、今後の学生生活や将来を考えるうえで大きな指針を与えてくれる経験であった。短期ではあったが、その濃密さゆえに、今後さらに長期留学へ挑戦したいという意欲を強く持つようになった点も、今回の大きな成果であるといえる。</p>	
<p>(3) 今後 START+プログラムに参加する後輩へのアドバイス</p>	
<p>今後このプログラムに参加する後輩に対して、最も伝えたいのは「積極性を持って行動すること」の重要性である。短期留学は限られた期間の中で多くの経験を得る機会であるため、待ちの姿勢では学びが半減してしまう。現地の学生や教員に自ら声をかけ、交流を広げることが、プログラムをより有意義なものにする鍵となる。</p> <p>また、言語に自信がなくても、恐れずにコミュニケーションを試みる大切であ</p>	

る。完璧な表現でなくても、積極的に伝えようとする姿勢は相手に好意的に受け取られ、交流を深めるきっかけになる。さらに、授業や見学の場では、疑問に思ったことを質問したり、感想を共有したりすることで、学びをより深めることができる。

最後に、日常生活の中での体験も大切にしてほしい。食事や交通、買い物といった小さな経験の一つひとつが、異文化理解につながる。短期間であっても、自ら積極的に関わり、学び取ろうとする姿勢が、プログラムを最大限に活かすための最も重要なポイントである。

2025年度前期 START+プログラム 事後レポート

所属学部・学科・学年	薬学部薬科学科 2年生
------------	-------------

(1) START+プログラムに参加して何を学んだか、この経験を今後どのように活かしていきたいか

私はこのプログラムからコミュニケーションにおける互いの歩み寄りの大切さを学びました。私たち参加者は中国語・台湾語を使うことができない中コミュニケーションをとらねばならず、現地の方々もわかりやすい英語で伝えようと努力していたことが伝わりました。しかし、中には英語でコミュニケーションをとることが難しい場面もありました。その時に互いに単純な単語で伝えようとしたり、身振り手振りを加えたりすることで意思疎通を図りました。これらの経験を活かして、今後日本語を話すことのできない方たちと接する機会があるときは「郷に入っては郷に従え」という諺はありますが、されど思いやりの心を忘れないように会話をしたいと思いました。

(2) プログラム内容についての全体的な感想

このプログラムでは自分が「普通」ではないことを経験することができたと思います。日本にいて学校に通っている現在は周りの人たちと自分が同じ方向を向いていて同じことをしながらともに努力するというのが当たり前のように感じられました。しかし、台湾に短期留学する中で私自身が異色の存在になる体験ができ、これまで多様性を意識する社会運動が活性化する中でそのありがたみを感じました。

(3) 今後 START+プログラムに参加する後輩へのアドバイス

参加を迷っているのなら参加するべき、参加を決めたのなら全力でチャレンジするべきだと思います。英語の勉強というよりも、スピーキング能力を高めておくことを事前準備としてするべきかと思います。